

受精・発生 最前線

~受精の仕組みと初期発生を支える代謝メカニズム~

Date : 2020年 2月 21日 (金) 13:00~15:40

Location : 群馬大学 生体調節研究所 (IMCR)

1F 会議室 (Conference room)

主催 : 生体調節研究所 細胞構造分野

少子高齢化が進む現代でも、受精や初期発生など生殖に関する知見はまだまだ不足しており、多彩な生物種で新しい知見が報告されては通説を覆し続けている。本ワークショップでは、初期発生にオートファジーが必須であることを見出した塚本智史先生 (Science 2008)、Izumo1の発見者である井上直和先生 (Nature 2005)、精子鞭毛運動のエキスパートである柴小菊先生 (PNAS 2008)、そして受精に必須なCD9の発見 (Science, 2000) などこの分野をリードされている宮戸健二先生をお招きし、最新の知見をご紹介します。

13:00-13:10

「はじめに」

13:10-13:50

「受精卵の発生に脂肪は必要か」

塚本 智史 先生

量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 生物研究推進室 主幹研究員

13:50-14:30

「精子と卵子が会うために必要な分子メカニズム」

井上 直和 先生

福島県立医科大学 医学部附属生体情報伝達研究所 細胞科学研究部門 准教授

14:30-15:00

「ホヤ精子鞭毛波形制御におけるカルシウムイオンとcAMPの役割」

柴 小菊 先生

筑波大学 大学院生命環境科学研究科 下田臨海実験センター 助教

15:00-15:40

「共生微生物による生命機能の制御：侵入者からの恩恵と消失による疾患」

宮戸 健二 先生

国立成育医療研究センター 再生医療センター 細胞医療研究部 室長

本発表後に伊香保研究所に移動し、若手研究発表会を予定しております。研修所での研究発表会等に参加希望の方は、1/20(月)までに細胞構造分野 佐藤裕公 (yuhkohs@gunma-u.ac.jp TEL: 027-220-8842) までご連絡ください。学内・学外を問わずご参加可能です。